

視聴覚教育

NO 121

発行日

1. 3. 1

発行

岡崎市AVL

編集

広報委員会

岡崎の視聴覚教育

この一年

本市の視聴覚教育にとって、本年度は施設・設備の面、実践研究の面、いずれも充実した内容であった。

1. 校内放送関係の施設・設備面では、市内全小中学校に、どの教室からもテレビ校内放送ができる双方向（逆送）システムが完了した。（校舍改築校・移転校は除く）

2. 中学校へ導入したパソコンが、それぞれの学校でクラブ活動を中心にフル回転していること。加えて、数学・理科・音楽などの授業で、このパソコンを活用して効果をあげている例も出てきている。

3. 全国自作視聴覚教材コンクールにおいては、本市より応募したビデオ作品二本が全て入選の栄に輝いた。

4. 日本視聴覚教育賞論文で六ッ美中学校が見事に奨励賞を獲得。

また、全国放送教育論文では、美川中学校高木和広教諭がNHK会長賞を受賞した。

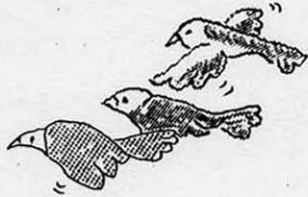
5. 愛知県自作視聴覚教材コンクールでは、8ミリ映画・ビデオ作品など六本が入賞、自作OHP・TP作品では、大量三十四点の作品が入賞するなど、大きな成果を残した。

※OHP、スライド、映画、テレビ、VTR、

ビデオスロジエクター、アナライザー、パソコンなど、各学校へ導入されている教育機器もますます多様化している。これらの機器が全ての学校で、全ての子どもたちのために使われてこそ、最大の成果といえる。本年度の反省をもとに、来年度へのスタートとしたい。

サークル汗流動報出口

本年度も、映像サークルとパソコンサークルの二つのサークル活動が行われてきた。映像サークルでは、北野小学校を活動の拠点として、これまでに写真を中心とした撮影会、作品批評会を行ってきた。パソコンサークルは、竜海中学校を会場に、毎月第三土曜日を活動日とし、主に、プログラムの情報交換、授業へのパソコンの活用方法を考えた。そして、夏休みには、пейシック講座を開き好評を得た。

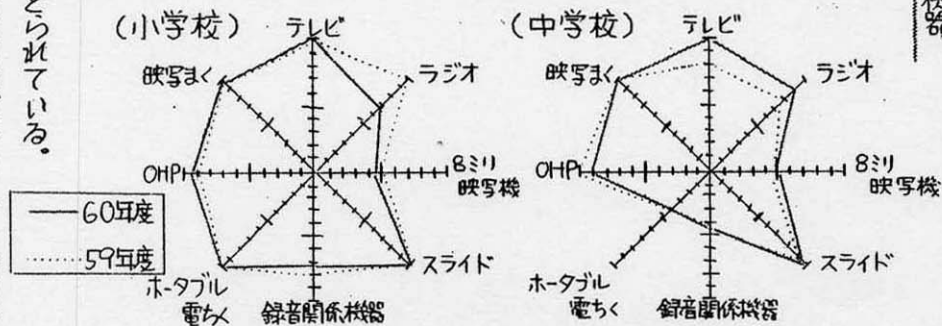


充実しつつある 映像関係機器

今年度の機器保有状況は、昨年度と比較し、小中学校とも、双方向システムの充実、映像調整車の導入校等があり、それに伴って、全体的にTV・カメラ・VTRが増えると同時に、VTRは一体型や8ミリビデオと多様化してきた。

また、その利用の方法も特別活動やゆとりでの時間での利用が目立ち、校内放送も音声放送から映像放送へと徐々に変化している。そのため、各校での自作活動も盛んで教材として授業に活用される量も増している。双方向システムの活用例として、学校行事の他、研究授業での現場中継、児童相互の授業参観など、教師児童ともに利用価値を感じる方法がとられている。

学校におけるパソコンの増加は、時代の要求であり、今後の推移が注目されている。



県自作教材

コンクール発表

今年2月14日に、県教育センターで、昭和60年度の県自作教材コンクール発表

会が行われ、岡崎市より受賞関係者15名が参加。表彰式につづき審査委員長の講評、優秀作品の試写があり大盛況であった。岡崎

市関係分の入賞は次のとおり。

- ▼優秀賞 継承 (8ミリ) ▼佳作 みて工場をたずねて
- 上水道 (以下ビデオ) 大水をいせぬ

▼優良賞 鳥が自然に 家康と一向一揆

最後に審査員のNHKディレクターから、番組づくりは、よくばり過ぎない。画面で語らせる努力を、不自然さを避けて、と総評があった。今後の糧としたい。

ライブラリーだより

ライブラリー

61年度4月より、太陽の城へ移設します。現在、事務室・資料室ともに工事中ですが、新しい活動を始めます。エントラ期待の整理の都合上、貸し出しは、3月22日までです。

編集記 多くの方々の協力をいただいて、責任を果たすことができた。来年度はさらに紙面の充実にあつめたいと思つ。

